

令和 7 年度

教員資格及び教育内容等の自己評価書報告

令和 8 年 7 月 31 日

< 作業療法学科 >

医療福祉専門学校緑生館

様式 3

作業療法学科 教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常勤 教員	専任教 員一人 あたりの 在籍 学生数	備考
	副校 長	学科 長	副学 科長	専任 教員	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
作業療法 学科	0 人	1 人	1 人	5 人	7 人	6 人	7 人	0 人	30 人	14.9 人	2025 年在 籍者 数 104 名

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	社会心理学	30	田中豊治	兼任
		社会福祉学	30	鬼崎信好	兼任
		高齢者福祉論	30	鬼崎信好	兼任
		生涯教育論	30	溝内亮佑	兼任
		心理学	30	岡村尚昌	兼任
		教育学	30	徐佳汝	兼任
		統計学	30	中村博和	兼任
		くらしとマルチ メディア	30	中島道夫	兼任
		体育	45	坂元瑞貴/山口裕嗣	兼任
		パラスポーツ概 論	30	寺崎司/他	専任
		医療英語	30	坂本飛鳥	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学 1	30	太田啓介	兼任
		解剖学 2	30	太田啓介	兼任
		解剖学 3	30	太田啓介	兼任
		解剖学実習 1	45	田平陽子	兼任
		解剖学実習 2	45	田平陽子	兼任

		生理学 1	30	木下佳祐/島ノ江寿/尾鷲百佳子	専任
		生理学 2	30	鶴崎政志	兼任
		生理学 3	30	鶴崎政志	兼任
		生理学実習	30	石田真由/他	専任
		運動学	45	真鳥伸也	専任
		運動学実習	45	熊谷隆史	専任
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学概論	30	濱田信之	兼任
		臨床心理学	30	岡村尚昌	兼任
		内科学 1	30	熊谷隆史	専任
		内科学 2	30	深堀辰彦/熊川恵子・川崎隆	専任/兼任
		整形外科 1	30	石橋昌也	兼任
		整形外科 2	30	石橋昌也	兼任
		神経内科学 1	30	木下佳祐	専任
		神経内科学 2	30	木下佳祐	専任
		精神医学	30	中野慎也/藤井優樹	兼任
		人間発達学	30	岸本励季	兼任
		画像読影	30	星原正則	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	30	高森真須美	専任
		リハビリテーション医学	30	浅見豊子/他	兼任
専門分野	基礎作業療法学	リハビリテーション入門	30	深堀辰彦/尾鷲百佳子/他	専任
		作業療法概論	30	畑雄作	兼任
		作業療法概論実習	45	熊谷隆史/石田真由/尾鷲百佳子	専任
		基礎作業学	30	石田真由	専任
	作業療法管理学	作業療法管理運営学	30	真鳥伸也	専任
	作業療法評価学	作業療法評価学	30	内山美枝子	専任
		作業療法評価学実習 1	30	内山美枝子	専任
		作業療法評価学実習 2	30	内山美枝子	専任

		作業療法評価学 実習 3	30	内山美枝子	専任
		作業療法評価学 実習 4	30	内山美枝子	専任
		臨床能力演習 1	30	内山美枝子	専任
		臨床能力演習 2	30	熊谷隆史	専任
	作業療法治療学	基礎作業学実習 1	45	石田真由	専任
		基礎作業学実習 2	45	石田真由/他	専任
		身体機能作業療 法学	45	寺崎司	専任
		精神機能作業療 法学 1	30	田尻威雅/原田健一	兼任
		精神機能作業療 法学 2	45	石田真由	専任
		発達過程作業療 法学	30	尾鷲百佳子	専任
		高齢者作業療法 学	30	島ノ江寿	専任
		高齢者作業療法 学	30	島ノ江寿	専任
		高次脳機能作業 療法学	45	寺崎司	専任
		身体機能作業療 法学実習 1	30	寺崎司	専任
		身体機能作業療 法学実習 2	30	寺崎司	専任
		身体機能作業療 法学実習 3	30	熊谷隆史	専任
		精神機能作業療 法学実習	45	石田真由	兼任
		発達過程作業療 法学実習	45	尾鷲百佳子	専任
		義肢装具学	45	高森真須美/島ノ江寿	専任
		日常生活活動学	45	島ノ江寿	専任
		日常生活活動学 実習	45	島ノ江寿	専任
		生活行為向上マ ネジメント演習	30	熊谷隆史	専任
		作業療法臨床推 論	30	内山美枝子/他	専任

	地域作業療法学	地域リハビリテーション	30	熊谷隆史/倉富眞/他	専任/兼任
		地域作業療法学実習	45	島ノ江寿/他	専任/兼任
		生活環境学	30	原口考	兼任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	40	実習施設指導者	
		地域リハビリテーション実習	40	実習施設指導者	
		臨床実習Ⅱ	240	実習施設指導者	
		臨床実習Ⅲ	720	実習施設指導者	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療施設の見学	1 年後期	リハビリテーション入門	1 年前期
		作業療法概論	1 年前期
		作業療法概論実習	1 年後期
通所リハビリテーションの見学	2 年後期	リハビリテーション概論	2 年前期
		高齢者作業療法学	2 年後期
		地域リハビリテーション	2 年後期
医療施設等での評価	3 年後期	作業療法評価学	1 年前期
		作業療法評価学実習 1	1 年後期
		作業療法評価学実習 2	2 年前期
		作業療法評価学実習 3	2 年後期
		作業療法評価学実習 4	3 年後期
		臨床能力演習 1	3 年後期
		臨床能力演習 2	3 年後期
医療施設での実践	4 年前期	各障害領域作業療法学	2/3 年前後期
		各障害領域作業療法治療学実習	3 年前期
		日常生活活動学	3 年前期
		日常生活活動学実習	3 年後期
		生活行為向上マネジメント演習	3 年前期
		作業療法臨床推論	3 年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	FD 委員会
委員名（委員長）	島ノ江 寿・内山 美枝子（高森真須美）
組織の開催頻度	1年に4回
組織の取り組み内容	・ 各学科当該年度の重点目標と達成計画の進捗
	・ 3つのポリシー、アセスメントポリシーの整備
	・ 教育力、指導力向上のための研修会の開催企画
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL：https://www.ryokuseikan.ac.jp）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教員全体会議・作業療法学科会議
	委員構成等	理学療法学科：高森真須美・政所和也・北島保子 他 作業療法学科：島ノ江寿・熊谷隆史・内山美枝子・石田真由・寺崎 司・尾鷲百佳子・真鳥伸也
	改善の仕組みの実際	厚生労働省指定規則改正や作業療法領域の拡大、教授手法の変遷等に伴いシラバス全体の改正を行っている。作業療法学科会議にて教育目標達成のための方向性や枠組み等含めた具体的な内容の修正を図っている。内容は理学療法学科との調整を図る必要があるため、教員全体会議（理学療法学科・作業療法学科合同教員会議）にて確認・決定している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価、FD委員会等により明らかになった課題は、内容に応じて役職者会議、理学療法学科・作業療法学科合同教員会議、作業療法学科会議にて対応を検討している。また、カリキュラムの実施動向を取り組みながら振り返り、拡充・変遷する作業療法領域の情勢と照らし合わせながら、教育内容の見直しを図っている。